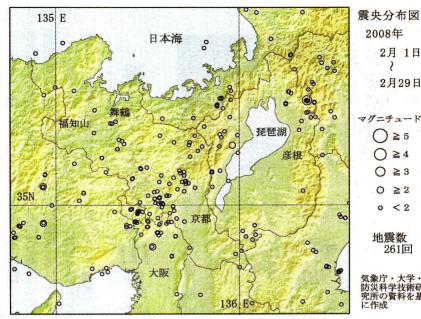
## 京滋地震情報 ■2月



71

西南日本南方沖の南海トラ ろん、近畿中部でも大きな被 フ沿いでは、約百年間隔で巨 害をうけるようです。

前回は1944年の東南海地震 とその2年後の南海地震の2 つの巨大地震が発生しました が、大阪・京都などの被害は

大地震が起こっています。

軽微だったとされます。その 前の1854年(安政年間)には、

1日おいて東海地震と南海地震が続けて発生しました。このときは大阪の一部で震度6の揺れがあり、大阪湾を3粒の津波が襲いました。

3回前の1707年宝永地震では、大阪平野全域でほぼ震度 6相当の被害があり、大阪湾でも津波による大きな被害がありました。南海トラフ全域が活動し、東海、東南海、南海の3つの巨大地震が同時に起きた連動型超巨大地震と呼べるもので、太平洋岸はもち 東京大の都司嘉宣准教授に よれば、大阪付近の被害の記 録から推定すると、6回前の 1361年(正平)の地震も連動 型でした。「連動型の後、非

型でした。「連動型の後、非 連動型が2回続く」を繰り返 したことになります。そうす ると、今世紀半ばまでに起き

るとされている次回の南海ト

ラフの巨大地震は連動型の順 番に当たります。 しかし、なぜこうなるか物

理的な理由は不明で、偶然か もしれず、次回必ず連動する と断言はできません。ともあ

と断言はできません。ともあれ、昭和の南海地震は歴代で最も小さかったものとも考えられるので、次もあの程度と高をくくるのは危険です。

(片尾 浩・京大防災研地震 予知研究センター准教授)